

古典A 竹取物語 帝の求婚① 教科書P.18～19 年 組 番 氏 名

古文を現代語訳してみよう。古文は日本語だから、カンペキ単語帳を見ながら考えれば、自力でできる。

カンペキ単語帳	本文	現代語訳
<ul style="list-style-type: none"> 帝 → 天皇のことだが、「帝」のままでもよい にはかに＝急に 日を定めて＝日程を決めて 御狩り＝狩り 出で給うて＝お出かけになつて 入り給うて → 自分で考えてみて 見給ふ＝ご覧になる 光満ちて＝光り輝いて 清らにて＝美しく ぬたる＝座っている ・あり＝いる これならむ＝これがかくや姫だろ おぼす＝お思いになる 近く＝近く 寄らせ給ふに＝お寄りになるよ 逃けて入る＝逃げて入ること 袖を＝女の袖を しらく給くば＝お捕まえになったので 面＝顔 ・らだく＝おおの 候くと＝いたけれど 初め＝初めに ご覧じつれば＝ご覧になっていた たぐひなく＝またもなく めでたく＝すばらしく おぼえむせ給ひて＝お感ひになつて 許す＝選ぶ ・しとす＝くはらふ とて＝とつて ぬて＝連れて おぼしめせむ＝らいたつて とちるに＝とちるよ 	<p>帝、にはかに日を定めて、</p>	
	<p>御狩りに出で給つて、</p>	
	<p>かくや姫の家に入り給つて見給ふに、</p>	
	<p>光満ちて、清らにてぬたる人あり。</p>	
	<p>しれならむとおぼし、</p>	
	<p>近く寄らせ給ふに、</p>	
	<p>逃けて入る袖をしらく給くば、</p>	
	<p>面をらだきて候くと、</p>	(女は)
	<p>初めよく御覧じつれば、</p>	(帝は)
	<p>たぐひなくめでたくおぼえむせ給ひて、</p>	
	<p>「許せむとす。」と、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ぬて＝連れて おぼしめせむ＝らいたつて とちるに＝とちるよ 	<p>ぬておぼしめせむとちるに、</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・奏す＝申し上げる *天皇に申し上げるをただけ使った語 	かぐや姫細くて奏す、	
<ul style="list-style-type: none"> ・おのが＝私の ・生まれてはぐらば ＝申し生まれておのまじたなひば 	「おのが身は、この國に生まれし 世の世にも使ひ給はぬ、	
<ul style="list-style-type: none"> ・使ひ給はぬ＝（召使として）お使ひいださ ぬのですが * 「いな」は上の語に給られる 	ふしゆにおまじまじかたぐや世の 世。」と奏す。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ふし＝とてお ・ぬておまじまじかたぐや世の世 ＝連れていかにいひつゝおまじまじ 	世、「なまかたおの世。	
<ul style="list-style-type: none"> ・なまか＝なまぢつか ・なまらむ＝そなたにじつかあそつ 	なまゆにおまじまじおの。」と、	
<ul style="list-style-type: none"> ・なま＝やほり ・ぬて＝連れて ・おまじまぢむ＝参るの ・とて＝とて 	御殿を請せ給らじ、	
<ul style="list-style-type: none"> ・御殿＝殿（お供が抱く天皇の乗り物） ・請せ給ら＝近くにお請せになる 	このかぐや姫、おの世にたりぬ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・おの＝おのこ ・影にたりぬ＝見えなくなつてしまった ・はかなく＝あつた 	はかなく、くたをうしおまじと (世世)	
<ul style="list-style-type: none"> ・くたをう＝残念だ ・おぼす＝お思ふになる ・けじ＝ほんごのじ ・ただ人＝普通の人 	けじ、ただ人にはおの世のけらと おまじと、	
<ul style="list-style-type: none"> ・にはおの世のけら＝おの世のたなぬ *けら → 「過去」ではなく「詠嘆」 	「おの世、御しおにはゆへに行かじ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・おの世＝それなり ・御しおには＝お供しては ・ぬて＝連れて ・行かじ＝行くまじ 	おのの御かたわつたの給らぬ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・御かたち＝お姿 ・とりの給ひぬ＝におなりくだせ ・それを思ひだじ＝おぬしそれだけお思ひ 	それを思ひだじに思ひなぬ。」と仰せ らるれば、	
<ul style="list-style-type: none"> ・思ひなぬ＝思つた 	かぐや姫、おのの御かたわつたにたりぬ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・かたち＝姿 ・なりぬ＝なつた 		

古文を現代語訳してみよう。古文は日本語だから、かんく井井語彙を覗きながら考えれば、自力でできる。

かんく井井語彙	本 文	現代語訳
<ul style="list-style-type: none"> なほ＝まほまほ ぬたぐ＝(かぐや姫を)おぼへしうし おほしめむるしう＝おぼへしなる嫁持なり せむしめがたし＝抑えきれない かぐ＝このまじ 見せしる＝見せてくれた 	<p>帝、なほぬたぐおほしめむるしうし</p>	
<ul style="list-style-type: none"> *「涅槃品」は翁の名前。訳をそのまゝ を驚ひ絶ふ＝におれをおこしやる さて＝それで、それで つからまつる＝お仕えしている 百鬼の人々＝たくさんの殺人たち あまじ＝おちこなしの宴会を いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おほしけれし＝お思ひになつたけれど しじめたる＝残した 心地してなる＝戻持まで 	<p>せむしめがたし。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> かぐ＝このまじ 見せしる＝見せてくれた 	<p>かぐ見せしる涅槃品を驚ひ絶ふ。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> *「涅槃品」は翁の名前。訳をそのまゝ を驚ひ絶ふ＝におれをおこしやる さて＝それで、それで つからまつる＝お仕えしている 百鬼の人々＝たくさんの殺人たち あまじ＝おちこなしの宴会を いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おほしけれし＝お思ひになつたけれど しじめたる＝残した 心地してなる＝戻持まで 	<p>たつつからまつる百鬼の人々、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> つからまつる＝お仕えしている 百鬼の人々＝たくさんの殺人たち あまじ＝おちこなしの宴会を いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おほしけれし＝お思ひになつたけれど しじめたる＝残した 心地してなる＝戻持まで 	<p>あまじいかめしうつからまつる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おほしけれし＝お思ひになつたけれど しじめたる＝残した 心地してなる＝戻持まで 	<p>帝、かぐや姫をしじめし</p>	
<ul style="list-style-type: none"> つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おほしけれし＝お思ひになつたけれど しじめたる＝残した 心地してなる＝戻持まで 	<p>帰の給はむしじめ、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おほしけれし＝お思ひになつたけれど しじめたる＝残した 心地してなる＝戻持まで 	<p>飽かずくちをしおほしけれし、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> おほしけれし＝お思ひになつたけれど しじめたる＝残した 心地してなる＝戻持まで 	<p>魂をしじめたる心地してなる</p>	
<ul style="list-style-type: none"> *「なむ」は訳をそのまゝ 帰らむ給ひける＝お帰りになつた 奉りてのちし＝お奉りになつたあとで 帰るむの＝帰るむの みゆき＝道行き *天皇のお出かけるしう ちの憂く思はえて＝おこころに思はれて 	<p>帰らせ給ひける。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 奉りてのちし＝お奉りになつたあとで 帰るむの＝帰るむの みゆき＝道行き *天皇のお出かけるしう ちの憂く思はえて＝おこころに思はれて 	<p>御慶に奉りてのちし、かぐや姫し、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> みゆき＝道行き *天皇のお出かけるしう ちの憂く思はえて＝おこころに思はれて 	<p>帰るむのみゆきちの憂く思はえて</p>	

<ul style="list-style-type: none"> • そむかして来る → 掛詞<small>かかじ</small> *二つの意味を含む ① (栞) らの返りて心か残る ② (栞) そむいて留まる (かぐや姫) 	<p>そむかして来るかぐや姫ゆゑ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • かぐや姫ゆゑ = かぐや姫のせいで 	<p>御返の事、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 御返の事 = 返事として 	<p>獲はふ下にも年は経ぬる身の</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 獲はふ下にも = つる尊の意の粗末な家 • 年は経ぬる身の = 取年暮らして来た私が • 何かはうをぞ思ひ = うつろつろを思ひたし思つてしよらか 	<p>何かは五のうてなをも見む</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 五のうてな = 兼し宮殿 • 御覽つて = 覧になつて • うつろ = うつろ 	<p>しれを若御覽して</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 帰の給はむ = お帰りになる • そらむなく = 方回すなうし • お思はる = お思ひになる 	<p>うつろ帰の給はむそらむなく</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • お思はる = お思ひになる 	<p>お思はる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 御心 = お心 • むらじ = むらじ • 立ち帰るくくち = 帰れそごにち 	<p>御心は、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • お思はれむら = お思ひになれなかつた • ちれむ = ちれむ 	<p>むらじ立ち帰るくくち</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • お思はれむら = お思ひになれなかつた • ちれむ = ちれむ 	<p>お思はれむらちれむ、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • むらじ = かじらつて 	<p>むらじ、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 夜を明かし給ら = 夜をお明かしになる • くちにあらねば = わけにもいかなないので • 帰らせ給ひぬ = お帰りになつた 	<p>夜を明かし給らくちにあらねば、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 帰らせ給ひぬ = お帰りになつた 	<p>帰らせ給ひぬ。</p>	